

大樹に衛星基地局

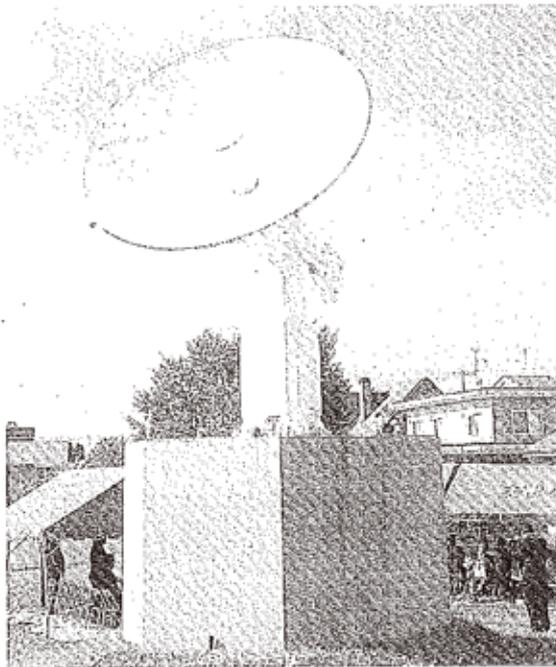
技術組合などデータ受信、処理

【大樹】超小型人工衛星(東京)と東大が衛星の打ち上げを目指す。十勝管内大樹町の町有地に建設していた、人システム技術研究組「工衛星からの電波を受

信する地上局が24日、完成した。組合は昨年3月に設立され、現在は宇部興産(山口県)、大樹町のベンチャー企業・北海道衛星など道内外の企業7社で構成。重さ50kg以下で、コストを抑えた超小型人工衛星の開発に取り組んでおり、来年12月から2013年にかけて5機を道外や海外で打ち上げる計画だ。

地上局は超小型衛星が撮影した写真などのデータを処理する施設で、国の補助を受け、

東大と共同で総工費約7千万円で設置。電波を妨害する建物が少なく、組合の構成企業や宇宙関連実験施設がある大樹町を選んだ。無人で遠隔操作できる回転式の直径4.5メートルのボラアンテナを備え、当面は既存の衛星からの電波受信などの試験を行う予定。組合の山口耕司理事長は「衛星のデータを農業や林業、漁業から災害対策まで、一般の人々が幅広く活用できるようにしたい」と話している。



人工衛星からのデータを受信するパラボラアンテナを備えた地上局